

**デジタルバッジを活用した
自律的に学び続ける教師を支援する教員研修モデルの開発
成果報告**

2024年3月
大阪教育大学

目次

I	はじめに.....	3
II	OKUTEP とは.....	4
	1.マイクロラーニング	4
	2.デジタルバッジ	4
	3.オープンエデュケーション	5
III	開発した研修モデルについて	6
	1.教師の目標と教育委員会のニーズの両立の実現.....	6
	2.研修受講履歴の活用	7
	3.研修受講履歴の統一的な管理.....	7
	4.良質で多様な研修コンテンツの提供	8
IV	実証実験の実施	10
	1.提供した研修コンテンツ	10
	2.実証実験の流れ	10
V	成果と評価	12
	1.受講状況.....	12
	2.ビデオ視聴状況	14
	3.アンケート結果	16
	4.3 市町村の研修担当者の意見.....	21
VI	まとめ	23
VII	付録.....	24
	1.教材マニュアル PPT の教材マニュアルを添付	25
	2.大阪教育大学と愛知教育大学が包括連携協定を締結（プレスリリース）	26
	3.提供した研修一覧	27
	4.研修とカテゴリ，教員育成指標との対応付け	29

I はじめに

大阪教育大学では、教員養成フラッグシップ大学としての役割を果たすべく、令和4年度から、現任教員の自律的で継続的・個別最適な学びを保障するオンライン教育プラットフォーム OKUTEP (Osaka Kyoiku University Teacher Education Platform)を開発し、「誰でも・いつでも・どこでも・自由に学べるオープンなオンライン教員研修」を提供してきた。

本事業では、この OKUTEP をさらに発展させ、以下の4点を実現する研修モデルを開発した。

1. 教師の目標と教育委員会のニーズの両立
2. 研修受講履歴の活用
3. 研修受講履歴の統一的な管理
4. 良質で多様な研修コンテンツの提供

さらに、本研修モデルの有効性を確認するために、政令指定都市である大阪市、堺市、人口1万5千人規模の河南町の3市町村と連携して実証実験を実施した。

本報告書では、開発した研修モデルを紹介すると共に、その研修モデルが具体的にどのような成果をもたらしたか、その効果と評価について報告する。

II OKUTEP とは

本研修モデルは、本学が令和4年度から提供を開始している OKUTEP を活用して開発した。図 1 は、OKUTEP で提供されるオンライン研修の構造を示している。OKUTEP で提供されるオンライン研修はマイクロラーニング、デジタルバッジ、オープンエデュケーションの 3 つの特徴がある。

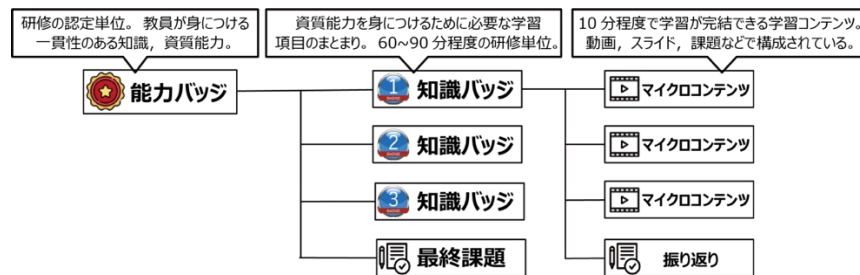


図 1：OKUTEP で提供されるオンライン研修の構造

1. マイクロラーニング

OKUTEP の第一の特徴はマイクロラーニングである。マイクロラーニングとは数分の短い時間で完結できる教材で学習を進める学習手法である。多忙な社会人等が隙間時間を見つけて効率的に学習することができ、また学習内容に集中しやすいという特徴があるとされている。さらに、教育提供者側にとっても教材の作成が容易であるとされている [1]。

OKUTEP では、10 分程度で学習が完結するビデオ教材と振り返り課題を組み合わせて 1 単元とし、単元を修了する毎に「知識バッジ」と呼ばれるデジタルバッジを発行している。定められた領域の知識バッジを集めると「能力バッジ」を発行するという 2 階層の構造により、多忙な教師でも隙間時間を活用してバッジを集めながら、最終的には系統的な研修を受講することができる。

2. デジタルバッジ

OKUTEP の 2 つ目の特徴は、知識バッジと能力バッジと呼ばれるデジタルバッジである。デジタルバッジは、研修の修了や学習成果を証明するデジタル証明書を、バッジを模した画像に埋め込んだ、特殊な画像ファイルである。デジタルバッジを取得することで、学習者のモチベーションを促進すると共に、雇用主に対して、資格や修了書として提示することが可能となる。また、取得したバッジを集めることで、自身の現在の資質能力、そしてこれから身につけるべき資質能力を俯瞰することができる [2]。

1 Souza, M. I. F. and do Amaral, S. F, "Educational Microcontent for Mobile Learning Virtual Environments*", Creative Education, 5(9), pp.672-681, 2014.

2 Clements, Kyle, Richard Edward West, and Enoch Hunsaker. "Getting started with open badges and open microcredentials." The International Review of Research in Open and Distributed Learning 21.1 (2020): 154-172.

3. オープンエデュケーション

OKUTEP の第 3 の特徴がオープンエデュケーションである。

OKUTEP はユーザー登録さえすれば、誰でも学習することができる。図 2, 3 に OKUTEP の画面イメージを示す。具体的には、OKUTEP ではユーザー登録さえすれば、ビデオの視聴(図 3 左)、確認テストの受験(図 3 中)、知識バッジの獲得(図 3 右)まで可能であり、能力バッジの獲得については教育委員会との提携を必要としている。



図 2 OKUTEP の画面イメージ



図 3 OKUTEP の研修イメージ

III 開発した研修モデルについて

本事業では、OKUTEPを発展させ、図4に示す研修モデルを開発した。ここでは、開発した研修モデルについて説明する。

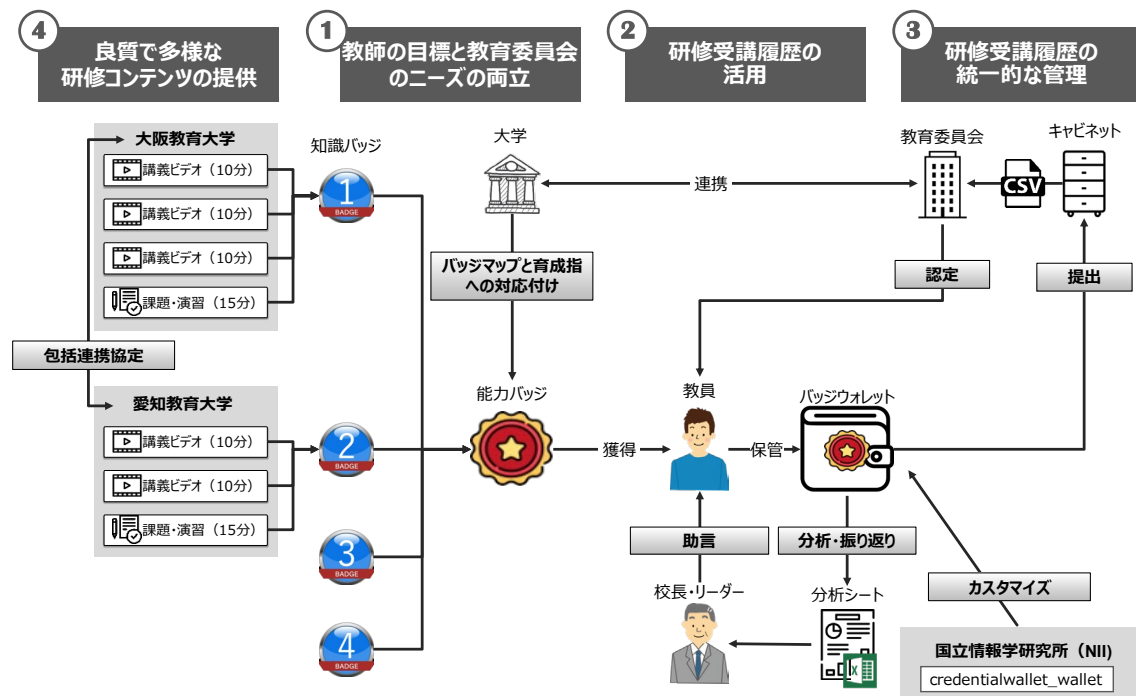


図 4 研修モデルの概要

1. 教師の目標と教育委員会のニーズの両立の実現

教員研修では、教員自身が自らの学習を主導し、継続的な成長を目指すことが重要である。同時に、教師が設定する個人的な目標と教育委員会などの任命権者・服務監督権者が求めるニーズの間での調和も求められる。そこで本研修モデルは、OKUTEP の能力バッジを、「バジスマップ」と呼ぶ本学が考える教師が身につけるべき資質能力(表1)に分類すると共に、教育委員会の教員育成指標との対応づけを行うこととした。

表 1：OKUTEP のバジスマップ

カテゴリ	カテゴリの説明(60 文字程度)
授業づくり	特定の教科によらない、一般的な教育方法や授業実施について学びます
教科等指導力	各教科の指導法や、その指導内容について学びます
子ども・人理解	人のこころのメカニズムの理解や、それに応じた人との関わりについて学びます
教員としての基本的な資質	教員が職務にあたり、前提として理解しておかなければいけないことを学びます
協働	教員が学校の内外で、どのように連携していくのかについて学びます
人材の育成	教員としての自他の資質・能力の向上や、その環境の構築について学びます
現代的課題	上記の課題以外に、新しく生まれてくる課題について学びます

これにより、教員はバッジマップのカテゴリから自身の興味や課題意識に基づき研修を選択することもでき、所属している教育委員会の求める資質能力から研修を選択することも可能となる。

2. 研修受講履歴の活用

教師が自律的に学び続けるには、自ら学修目標を設定し、研修計画を立て、それに基づいて研修を進める必要がある。このプロセスを支援するため、本研修モデルでは「バッジウォレット」を開発した。バッジウォレットは、取得したデジタルバッジに対応するバッジマップのカテゴリや教員育成指標を俯瞰して分析する機能を提供する。この機能により、教員は自分が取得したデジタルバッジを見渡し、それに基づいて研修の成果や自身の成長を客観的に評価できる。また、そこで得られた知見をもとに新たな学習目標を設定し、具体的な研修計画を策定することが可能となる。さらに、これらの情報を職場の上司やリーダーと共有し、対話や助言を受けることも可能である。バッジウォレットの詳細は、図5に示す。

なお、バッジウォレットの開発においては、国立情報学研究所(NII)の協力の下、NIIが開発し、Githubで公開している credentialwallet_wallet[3]および credentialwallet_gateway[4]をカスタマイズした。また、開発したウォレットについても GitHub より OSS で提供している[5]。

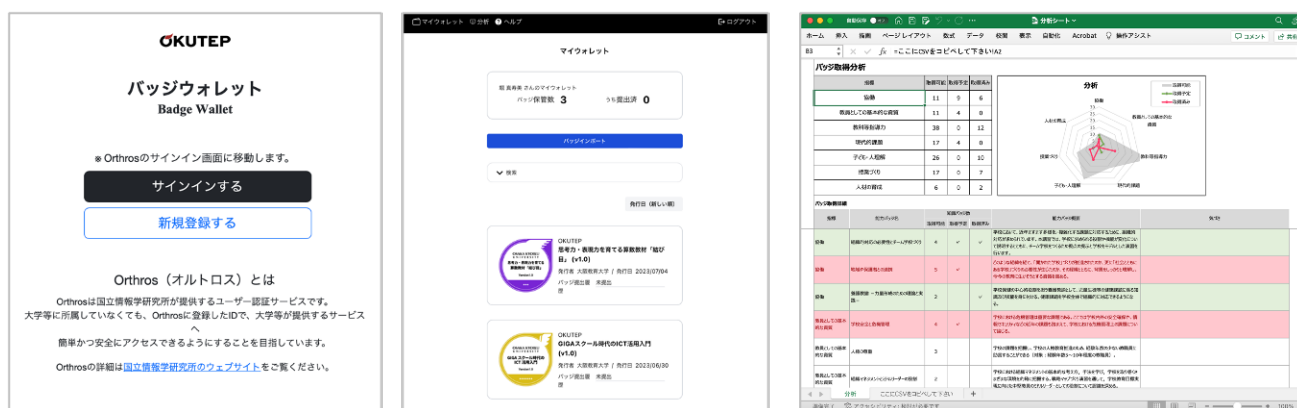


図5：バッジウォレット概要

3. 研修受講履歴の統一的な管理

研修受講履歴の管理について、教育委員会が独自の管理システムを持っている場合は、取得したバッジをその管理システムに反映させる必要がある。令和4年度のOKUTEP実証実験では、教師が取得したバッジをメールで教育委員会に送り、管理者が手作業でこれを確認し、システムに反映させていた。この方法は手間がかかるだけでなく、バッジの検証が困難で、誤って他人のバッジを提出する可能性もある。

この課題を解決するために、本研修モデルでは「バッジキャビネット」を開発した。バッジキャビネットは、教師が自身のバッジウォレットに蓄積したバッジを、教育委員会の管理システムに容易に提出できる機能を提供する。バッジキャビネットの導入により教育委員会は、教育委員

3 https://github.com/RCOSDP/credentialwallet_wallet

4 https://github.com/RCOSDP/credentialwallet_gateway

5 <https://github.com/npocccities/chilowallet>, <https://github.com/npocccities/chiloportfolio>

会が実施する研修と OKUTEP など外部機関が提供する研修の学習記録を一元的に管理することが可能になるとともに、研修受講履歴の管理が大幅に簡素化され負担が軽減される。

バッジキャビネットの詳細を図 6 に示す。このシステムは GitHub 上でオープンソースソフトウェア (OSS) として提供されており、誰もが利用可能である[6]。



図 6：バッジキャビネット概要

4. 良質で多様な研修コンテンツの提供

良質で多様なコンテンツを提供するため、本研修モデルでは教材制作体制の整備と、愛知教育大学との連携を行った。

(1) 教材制作体制の整備

90 分一コマの講義手法に慣れている大学教員にとって、数分単位で完結するマイクロラーニングの教材作成は簡単ではない。そこで、本研修モデルではいくつかの工夫を行った。

■ マイクロラーニングの定義

マイクロラーニングは、多忙な現役教員にとって有効であるものの、90 分の講義形式に慣れた大学教員には新しい概念となる。そこで、教員には研修毎にスライドを作成し、各スライドに目次を設けるよう依頼した。作成されたスライドは、教材作成担当者の手で目次に合わせて分割し、10 分程度で学習が終了するビデオ教材とした。これにより、大学教員の従来の教育手法でマイクロラーニング化が自然な形で実現した。マイクロラーニングの考え方を表 2 にまとめる。

表 2 マイクロラーニングの考え方

単位	学習時間の目安	考え方
能力バッジ	1～6 時間	研修修了認定の単位 複数の知識バッジで構成される 認定のため、最終課題を課す
知識バッジ	60～90 分	従来の大学講義の 1 コマに相当する。 マイクロラーニングで構成される。 認定のため、振り返り課題を課す

6 <https://github.com/npocccities/chilocabinet>

マイクロラーニング	～15 分	学習内容を数分～15 分にまとめた講義ビデオ。
-----------	-------	-------------------------

■ 音声合成ビデオの利用

OKUTEP で提供される 10 分程度で終了するビデオ教材はデザインを統一したパワーポイントのスライドによるスライドビデオとし、音声は大学教員が作成した説明原稿を音声に変換する合成音声を利用することとした。

これにより OKUTEP で提供される講義ビデオは規格化され、ビデオを柔軟に組み合わせ、違和感のない一連の研修を提供することができるようになっている。また、担当する大学教員が変わってもスライドや原稿の一部を変更するだけで修正できるため、教材のメンテナンスが容易になる。

なお、パワーポイントから音声合成ビデオスライドへの変換は、オープンソースソフトウェア (OSS) として提供されている CHiLO-Speech™を利用した。[7]

■ 教材作成マニュアルの整備

教材作成マニュアルを整備し、教材を作成する教員に配布すると共に、講習会を行った。

(Ⅶ付録「1. 教材作成マニュアル」参照)

(2) 愛知教育大学との包括連携

本学だけで質量ともに十分な研修を提供するのは限界がある。そのため、愛知教育大学と包括連携協定を締結し、教材の共有だけではなく、教材制作に関するノウハウなども共有し、本学だけでは実現できない質と量のコンテンツの充実を図った。

(Ⅶ付録「2. 大阪教育大学と愛知教育大学が包括連携協定を締結(プレスリリース)」参照)

7 <https://github.com/npocccities/chilospeech>

IV 実証実験の実施

本研修モデルの有効性を確認するために、政令指定都市である大阪市、堺市、河南町の3市町村と連携して、2023年7月3日～2024年2月29日の約8ヶ月間、実証実験を実施した。大阪市、堺市は政令指定都市であり、独自の教員育成指標と研修履歴管理システムを持っている。河南町は、教育委員会、学校、教員が一体となって研修を推進できる、人口1万5千人の小規模自治体である。

期間	2023年7月3日～2024年2月29日
連携	大阪市、堺市、河南町教育委員会
受講対象者	● 3市町村の教師(大阪市、堺市、河南町) ● その他の市町村等の教師(一般、附属学校) ● 一般
提供した研修コンテンツ	29科目

1. 提供した研修コンテンツ

実証実験として用意した研修科目、すなわち能力バッジは29種類である。独自の教員育成指標を持つ大阪市、堺市についてはそれぞれの教員育成指標に対応付け、独自の教員育成指標を持たない河南町については、大阪府の教員育成指標に対応づけて提供した。

(参照:付録Ⅶ 3. 提供した研修一覧, 4.研修とカテゴリ, 教員育成指標との対応付け)

2. 実証実験の流れ

実証実験は、教員自身がOKUTEPにユーザ登録し、自由に研修を選択する方式とした。研修を修了すると能力バッジを取得でき、能力バッジを取得するにはいくつかの知識バッジを取得する必要がある(図4)。

なお、実証実験では、OKUTEPの研修は、提携する3市町村の教師に加えて、OKUTEPの受講を研修と認定することを希望する、本学附属学校の教師も受講可能とし、能力バッジを発行した。また、それ以外の一般の人々も能力バッジの取得はできないが受講可能とした。

また、3市町村に所属する教師については、開発したバッジウォレット、バッジキャビネットを導入し、取得した能力バッジを、バッジウォレットに保管して分析シートで研修の振り返ること、ウォレットから所属する教育委員会のキャビネットに能力バッジを提出して、教育委員会が研修を認定することの流れも行った。

研修の流れを図7に示す。

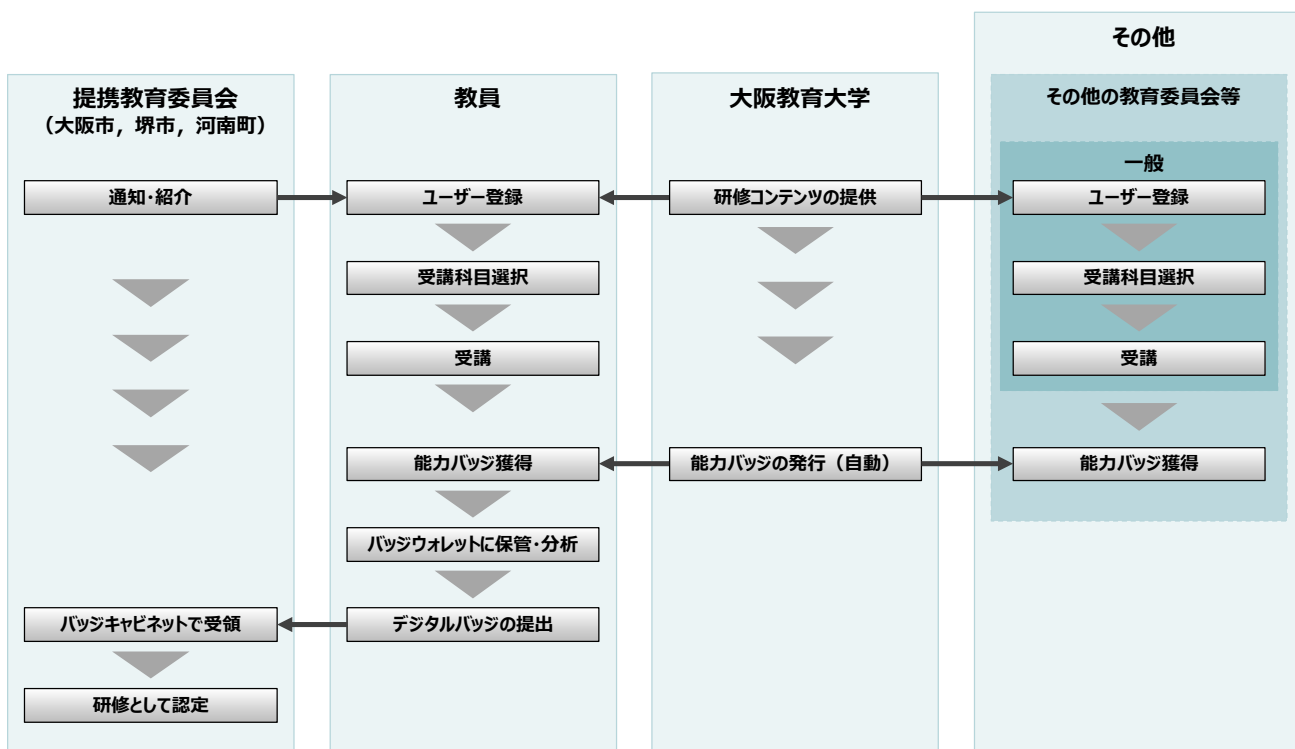


図 7：実証実験の流れ

V 成果と評価

実証実験の結果は以下の通りとなった。

1. 受講状況

(1) 受講状況

実証実験期間(2023年7月3日～2024年2月29日)に受講したユーザーは793名であった。その詳細を表3に示す。OKUTEPはオープンエデュケーションとして一般公開しているため、3市町村以外の受講者が233名(約30%)であった(図8)。

表3：実証実験受講状況

所属	ユーザー数	受講登録者数		バッジ取得者数		バッジ取得率(%)
		ユニーク	のべ	ユニーク	のべ	
大阪市	429	429	1207	397	1035	92.5%
堺市	46	46	123	30	92	65.2%
河南町	86	86	122	82	91	95.3%
その他の	233	233	437	—	—	—
合計	793	794	1889	—	—	—

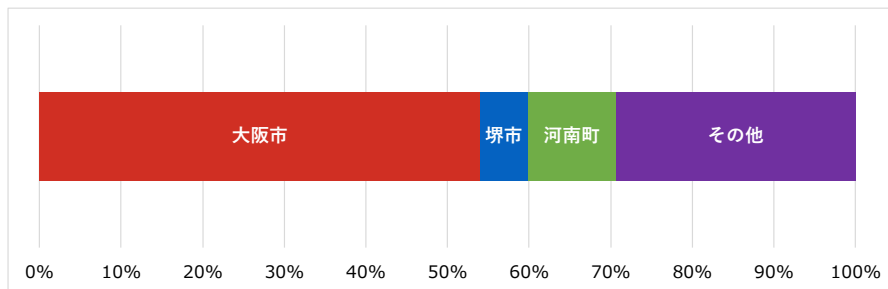


図8：ユーザーの種類

(2) 科目毎の受講状況とバッジ取得状況

提供した全29科目毎の受講者数とバッジ取得数を表4に示す。

表4：実証実験受講状況（科目毎）

NO	コンテンツ名	受講登録者	バッジ取得者	バッジ取得率
1	Society5.0時代の学校情報化	188	83	44.1%
2	主体的・対話的で深い学び	188	127	67.6%
3	子ども理解の教育心理学	149	120	80.5%
4	発想が広がる図工・美術の題材I	141	114	80.9%
5	物語教材の教材分析入門	120	97	80.8%
6	配慮を要する子ども・特別な援助ニーズのある子どもへの指導、支援	109	77	70.6%
7	GIGAスクール時代のICT活用入門	96	66	68.8%

8	教科の指導法(社会)	79	58	73.4%
9	授業実践に必要な英語スピーキング力向上講座 1	67	46	68.7%
10	子どもの心に耳をすます-感情の社会化を促す関わり	61	44	72.1%
11	特別支援教育の現状	61	50	82.0%
12	体育授業と子供の健康	59	43	72.9%
13	発想が広がる図工・美術の題材Ⅱ	55	43	78.2%
14	人権の尊重	52	34	65.4%
15	学校安全と危機管理	48	25	52.1%
16	子どもの変化と教職について省察する	46	18	39.1%
17	組織的対応の必要性和チーム学校づくり	46	28	60.9%
18	地域や保護者との連携	45	17	37.8%
19	教育相談-学校生活における具体的な支援-	45	29	64.4%
20	思考力・表現力を育てる算数教材「結び目」	42	29	69.0%
21	若手教員の育成	42	23	54.8%
22	授業実践に必要な英語スピーキング力向上講座 2	38	34	89.5%
23	SDGs の学習:基礎理論編	24	14	58.3%
24	中学校・高等学校数学教員のための数学	23	11	47.8%
25	安全の視点からの保健体育授業	18	15	83.3%
26	SDGs の学習:教材研究編	17	11	64.7%
27	SDGs の学習:カリマネ編	12	9	75.0%
28	新しい食の安全を考える-ゲノム編集	9	8	88.9%
29	新しい食の安全を考える-遺伝子組換え	9	5	55.6%

(3) 受講者の受講科目

受講者が受講登録した科目数を図 9 に示す。

令和 4 年度に比較し、2 科目以上の複数科目を受講した学習者が増加した。

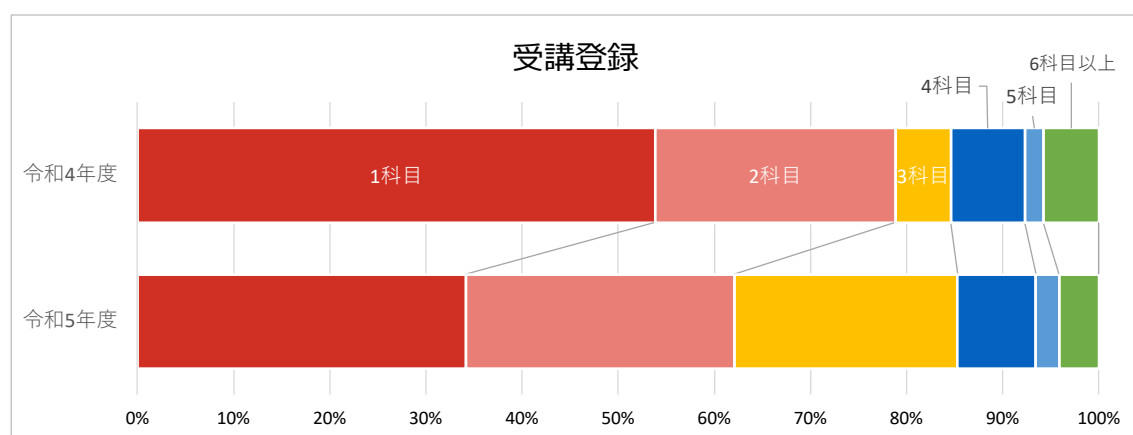


図 9：受講者の受講科目数

(4) 受講者の取得バッジ数

受講者の取得バッジ数を図 10 に示す。

令和 4 年度と比較し、バッジを取得しなかった受講者が減少した。

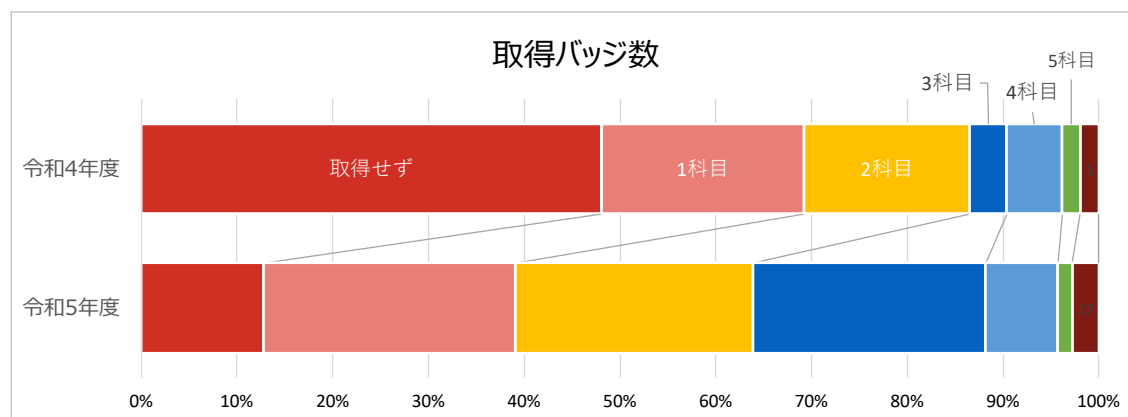


図 10：受講者の取得バッジ数

2. ビデオ視聴状況

(1) ビデオ視聴状況の推移

図 11 は、実証実験期間(令和 5 年 7 月 3 日～令和 6 年 2 月 29 日)における、講義ビデオ視聴者数(ユニーク)の推移である。夏期休暇期間が最も多く、以降、徐々に減少しているものの、2 月の研修修了間際に再び受講者が増えていることがわかる。

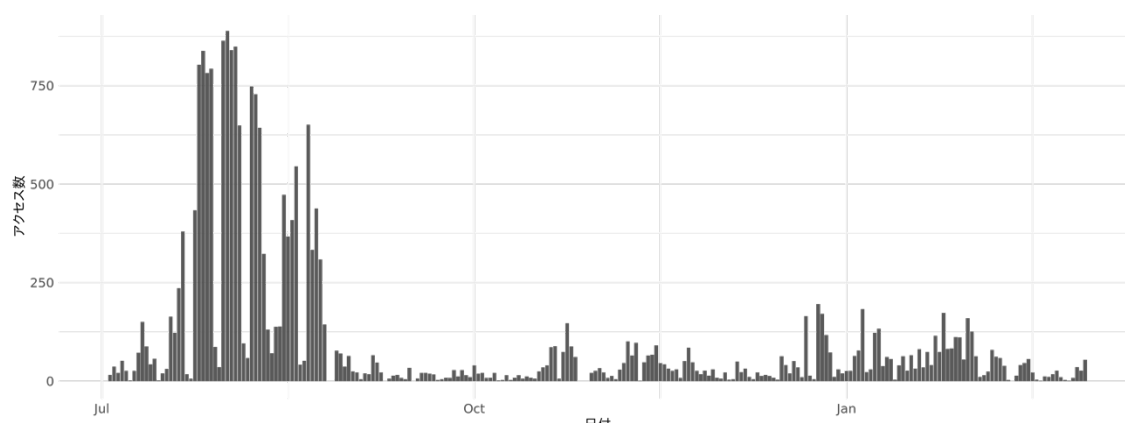


図 11：ビデオ視聴者数（ユニーク）の推移

(2) ビデオ視聴の時間帯

図 12 は 1 日のビデオ視聴の状況である。午前 8 時以降から午後 6 時までの就業時間の視聴が多いものの、午後 6 時以降の就業時間後のビデオ視聴も見られる。

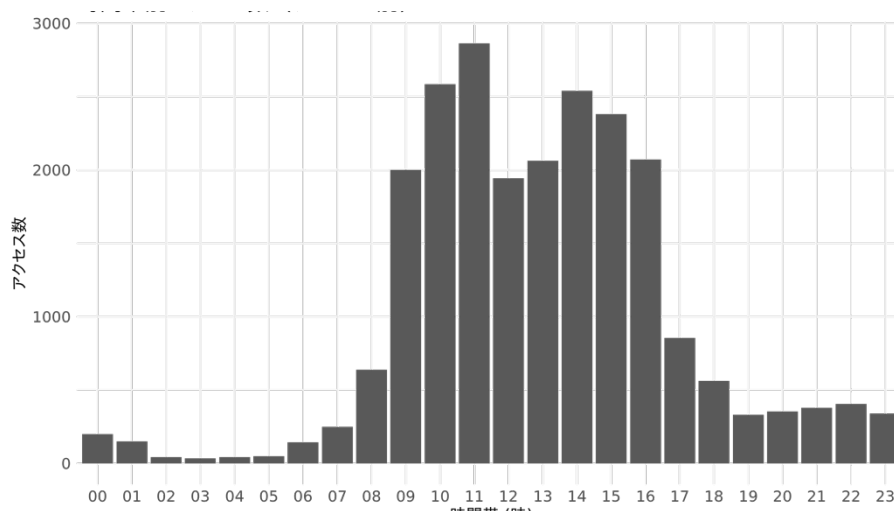


図 12：ビデオ視聴時間帯

(3) 曜日毎のビデオ視聴状況

図 13 は、曜日毎のビデオ視聴状況である。

月曜日から金曜日までのウィークデイが中心であるものの、土曜日、日曜日の週末の視聴も見られる。

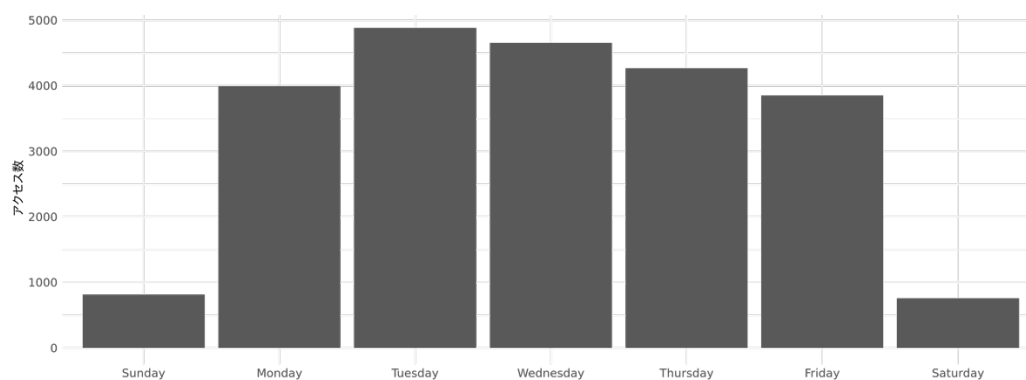


図 13：曜日毎のビデオ視聴状況

(4) 学習時間

■ 1 回あたりの学習時間

表 5 は、受講者の 1 回あたりの連続ビデオ視聴時間と実証実験期間のビデオ視聴時間合計の平均および中央値である。1 回あたりのビデオ視聴時間の平均および中央値は 5 分程度と非常に短い物の、全体のビデオ視聴時間は平均値：4 時間、中央値約 3 時間と十分とられていることがわかる。

表 5：受講者のビデオ視聴時間合計

	平均(分)	/時)	中央値(分)	/時)
1 回あたりの連続視聴時間	5.93	/ 0.10	5.50	/ 0.09
視聴時間合計	268.14	/ 4.47	164.33	/ 2.74

3. アンケート結果

3 市町村の受講者に任意でアンケートを行った。回答数は 81 名であった。以下のその回答状況を示す。

Q1 勤務先の校園種をご選択下さい。

Q2 性別をご選択ください。

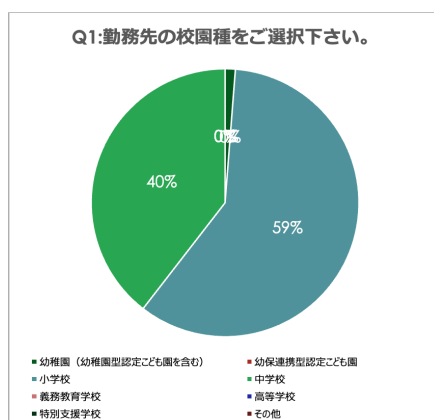


図 14：Q1 勤務先の校園種をご選択下さい。

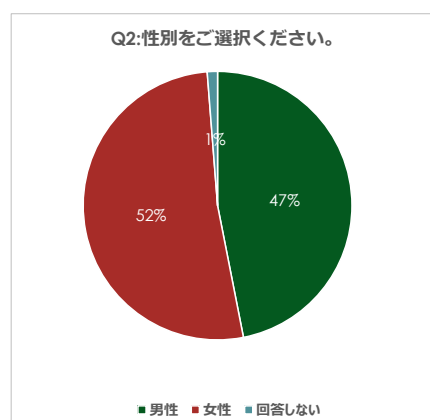


図 15：Q2 性別をご選択ください。

Q3 年齢をご選択ください。

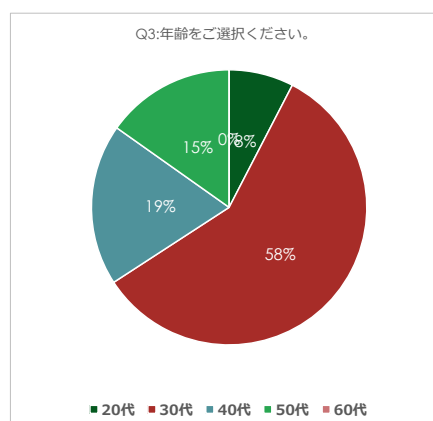


図 16：Q3 年齢をご選択ください。

Q4 あなたが研修全般に参加する目的をご選択ください（複数選択）

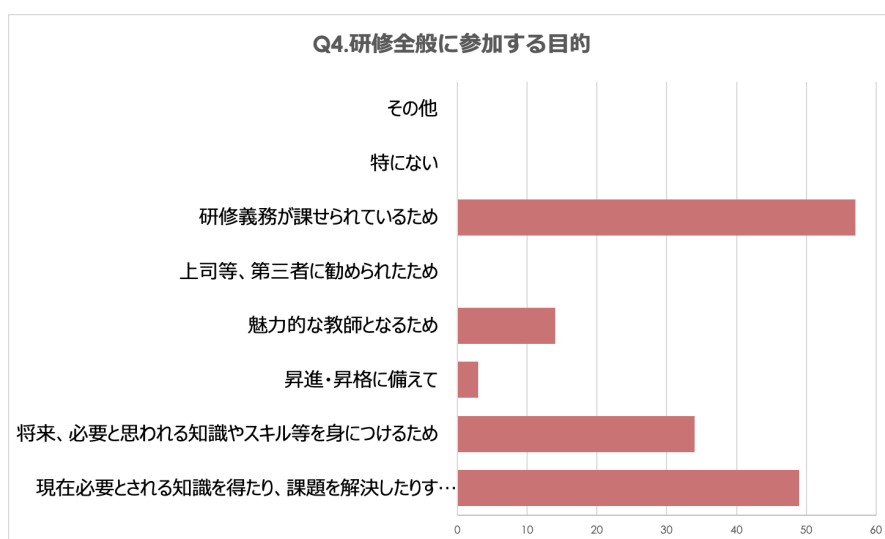


図 17：Q4 あなたが研修全般に参加する目的をご選択ください（複数選択）

Q5 研修参加を困難とする要因を以下の選択肢から選んでください（複数選択可）

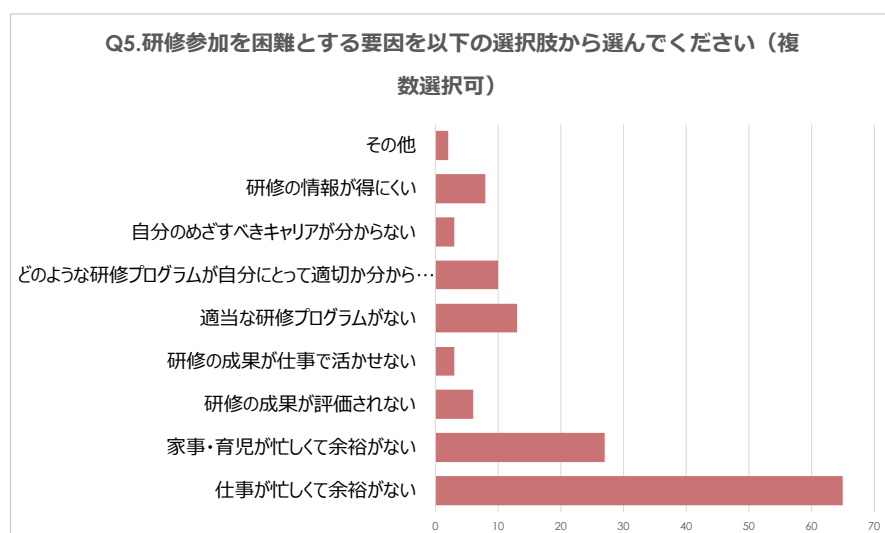


図 18：Q4 あなたが研修全般に参加する目的をご選択ください（複数選択）

Q6OKUTEP でのオンライン研修に関する以下の項目についてご回答ください。

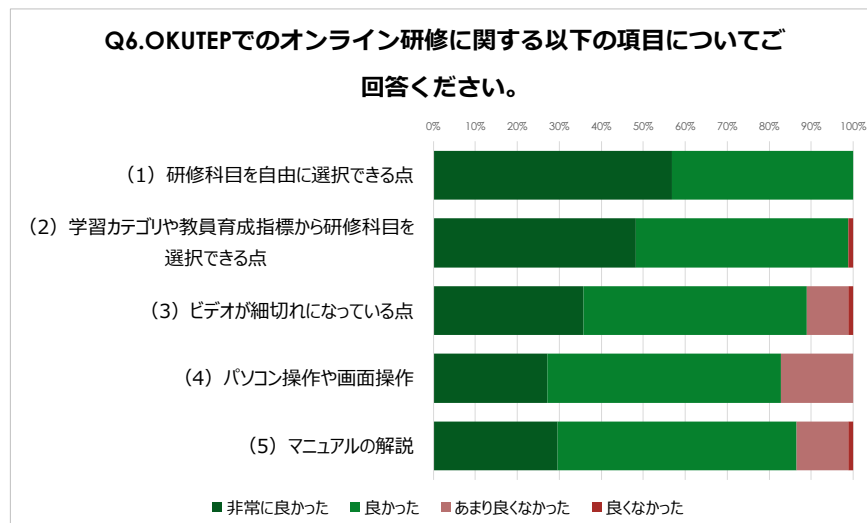


図 19：Q6OKUTEP でのオンライン研修に関する以下の項目についてご回答ください。

Q7 受講された研修の分量（時間）をご回答ください。

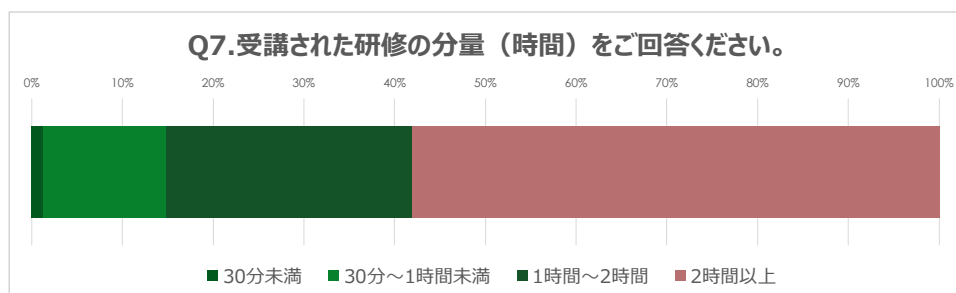


図 20：Q7 受講された研修の分量（時間）をご回答ください。

Q8 デジタルバッジに関する以下の項目についてご回答ください。

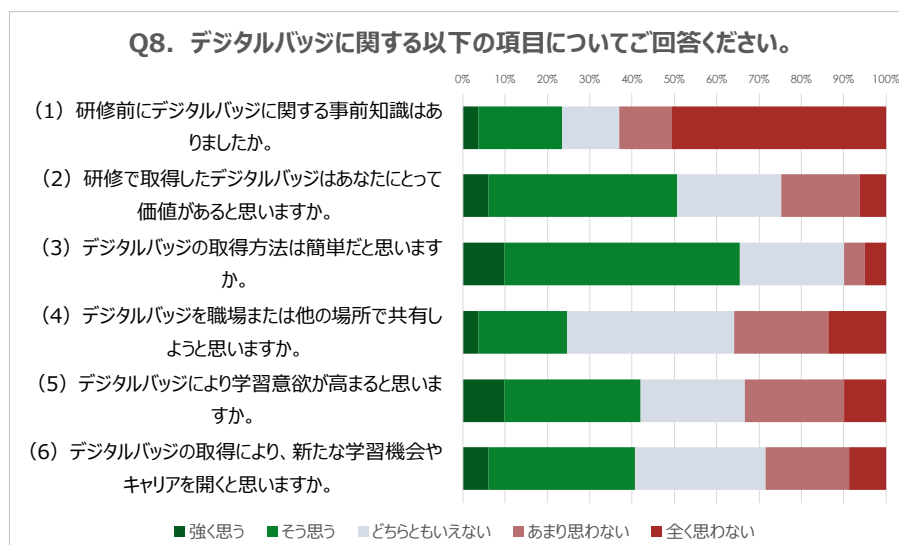


図 21：Q8 デジタルバッジに関する以下の項目についてご回答ください。

Q9 総合的にみて、今回のオンライン研修に満足していますか。

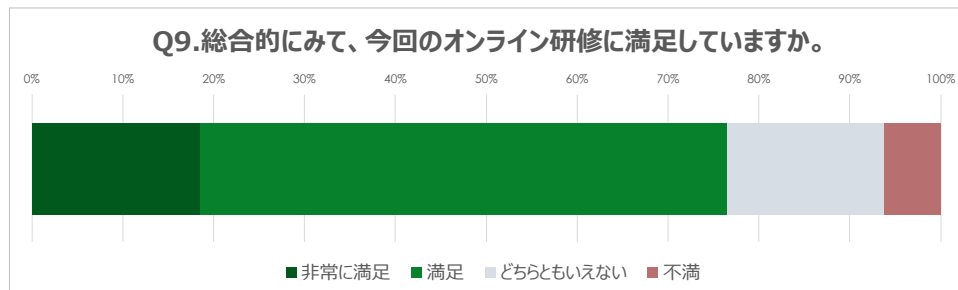


図 22：総合的にみて、今回のオンライン研修に満足していますか。

Q10 本研修について、改善した方がよい点、ご希望等がありましたら、ご自由にお書きください。ポジティブな意見

- とてもやりやすくてよかったです。ありがとうございました。
- 教育について改めて学ぶことができ良かった。
- ありがとうございました
- 中堅研修として利用することになりましたが、誰でもいつでも学びたいときに学べるようにするとよりよいと感じました。
- 特にないです。オンライン研修は便利だと思います。
- 色々と考案してくださってありがとうございます。
- とても勉強になりました。教材がかなりいいので、校内の教職員全体研修会で動画を使用できるといいなと思いました。
- 特にありません。貴重な研修を受けることができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- オンライン研修は、研修会場に行かなくても職場で研修が受けられ、また、聞き逃したところをもう一度聞いたり、途中で休養を頼まれたときに一度止めて都合のいい時に再開できるので便利でした。最後のテストで重要な内容やワードを確認できたのもよかったです。
- 初めて利用しましたが、操作等は分かりやすかったです。最後にミニテストがあるのも、自分の理解度を図るのによかったです。デジタルバッジの意義や活用方法が分かりませんでした。
- 個々人で研修を選べたことは良かったと思う。ただ、研修内容によっては、難しいものもあったように感じました。
- 受講した研修が楽しかったので良かったです。ありがとうございました。
- 特にありません。研修のご準備など、ありがとうございました。
- 本研修について、改善を求める点はありません。本研修を受講した成果を、仕事に活かそうと思います。
- GIGA スクールなど新しい課題や問題点が知れてよかった。また、バッジがあることで意欲的になる工夫はゲームのような感じがあって楽しく学習できた。
- 選べる講義がたくさんあってよかったです。
- とても良い研修内容でした。

- 分かりやすかった。
- 大学の先生の講義をオンラインで自分の都合に合わせて学習できることはとてもよかったです。先生に質問を書いたのですが、返答してもらえているかの確認の仕方がわかりません。そこら辺の操作の仕方や確認の仕方がやりやすいようになれば、とてもありがたいと思います。
- 研修を選べる点は良かったです。 Society5. 0の話は為になりました。 有難う御座いました。
- 特にありません。夏休みにゆっくり研修ができてありがたかったです。
- 研修を自分で選べる形がよかったので次回もこのような形式だとありがたい。
- 研修はわかりやすく、動画も細かく分かれているので、少しの空いた時間で研修を進めることができたことがとてもよかったです。
- 興味のある研修を自分で選択でき、夏休みなどの時間のある時に自由に受講できるのが良かったです。また、授業に活かせるものもあり勉強になりました。
- オンラインで新しい知識を得ることができて良かったと思います。
- 放送大学で単位を取りながら、学習すれば十分だと思いました。
- とてもよかったです。ありがとうございました。
- 時間の制約がなく参加できたのはよかった。
- 学校の仕事をしながら動画を観ての研修はなかなか大変でしたが、長期休みなどの時間を使って研修に参加しました。最初の操作に戸惑ったり、バッジの受け取り方などがやはり難しく、戸惑いました。登録の仕方など、もう少し簡単だとありがたいです。
- 動画が分かりやすく良かったです。
- 隙間時間に行えるので良かったです
- 堺市の 8 年次研修の単位を獲得できる機会の一つとして、この研修を知ることができた。昨年度まで教職大学院で学んでいたもので、引き続きこのような研修を受けることができたのを大変ありがたいと思っている。ビデオが細切れになっているので何度も同じ動画を見て復習することも可能であり、字幕(ノート)があるので聞くだけでなく読むことができたので、理解が深まった。 希望としては、もっと実践的な内容があるとよいと感じた。理論的なことはとても学べると思うので、現職教員の技術的なノウハウなどを共有しあえるといいなと思う。
- 動画での研修は非常に助かりました。ありがとうございました
- とても勉強になりました。
- オンライン上での研修とのことで、自分に合った時間に学ぶことができたのが良かったです。ビデオが細切れになっていることで集中もできますし、映像での研修ということで止めてノートをとったりすることができたのが良かったです。

要望

- 操作がややこしい
- 免許更新研修の使い回しはやめたほうがよいと思う
- PW が普段使っているのと違い、困りました。
- もっと現場での認知度があがるような工夫をされとなおよい。
- パスワードの設定など、もっとわかりやすくして欲しいと思いました。
- バッチは必要ないかと思いました。

- 1～2分程度で終わってしまう動画は、細切れにしなくてもよいかなと思いました。ありがとうございました。
- オンラインの魅力は職場から手軽に参加できる点にあると思うが、一方で、興味のない内容を一方向で受け身になって受講するというのは、あまり効果が期待できないと思う。理想は、スペシャリストから実際に話を聞いて、聞きたいことはその後で質問に行くなど、本当の意味で「身になる」研修にすべきだと思う。教職員は、日々の教育活動そのものが自身を研鑽する「研修」になるのだから、時間を使って研修をするのであれば、学校での教育活動やクラブ活動などの「研修」で得られるものを上回らないと意味がないと思う。非常に学問的で、現場感覚としては「役に立ちにくい」内容だったと思う。
- 仕組みがわからなかったなので、受講するまでに登録などいろいろ時間がかかってしまった。
- 途中で、一部分だけ再生できない動画があった。問い合わせをしても回答が得られたかどうか記憶があやふやである。
- 現場に生きてくる知識の習得を目的とした研修の実施にしてほしい。
- 履修している研修内容の動画がとても細切れになっており、連続して再生してしながら視聴できず、PCの常々の操作が非常に手間であった。
- 研修にかかる時間を示してほしいです。まとめて見たいときや、途中で切りたいときの目安があれば良いと思いました。
- バッジの取得が少し難しかった。
- デジタルバッジの量がビデオの長さの量なのか何なのかが分からず、2時間で終わった研修を選んだ人もいれば、私のように選んだ研修が7時間以上に及ぶ場合もあり、同じ悉皆研修であるにもかかわらず分量の差が大きすぎる。
- 研修資料がないものがあったので、他の講義同様資料がほしかった。
- バッジを獲得するまでの過程が長い、新規登録が難しかったのでもう少し簡単にしてほしい。
- 動画の研修数ができる限りしぼられると、ありがたいです。
- 好きな時間に自分の勉強したい内容を選択できたのがよかった。それが、必修の河南町の研修と結びついてたのがよかった。やはりある程度は必然、拘束？力と、ノルマにしないと、意欲だけでは研修するまではいかない。しかし、いくつ以上、研修を受けなければならない、と決めてもらえると、そこが入口となり、その先は夏休みのような時間が作れるときならば、もっと知りたい、学びたいという意欲につながりやすかった。
- オンライン研修で良かったとは思いますが夏休みの部活動等生徒対応で心休まる日がないのに、オンライン研修は大変だった。それなら役場で、場所が違った場での研修に意味があるし集中できる
- リンクを押しても、すぐに動画が再生されないことがある。
- 動画の時間がすべて見るまで分からず、予定が立てにくかった。最初のページに研修を受講するのに必要な時間が書いてあるとよかった

4. 3 市町村の研修担当者の意見

(1) バッジを用いた研修の修了認定についての課題

- 最終の能力バッジを取得するまでに、段階的に知識バッジを取得する必要がある、容易に自身の研修受講の経過を確認することができた。バッジ取得の過程で、町内の教職員から、特段質問を受けることもなかったため、研修修了認定までに課題は感じられなかった。
- すべての課題を確認していませんが、視聴後に学びを確認する機会があることは大切であると考えております。

(2) バッジを用いた研修の修了認定について期待すること

- 取得したバッジを、バッジウォレットおよびバッジキャビネットに移行する過程が煩雑であった。“バッジウォレットの操作手順”を参照しても、ログインIDの紐づけ等が困難に感じる教員が多かった。本町の多くの教員は、夏季に研修を終了し、能力バッジを取得していた。その時点で、バッジウォレット・キャビネットのシステムが構築され、操作手順等が示されていれば、一連の流れとして、最終のキャビネットへの提出割合が増えていたと思える。研修受講以前からバッジキャビネットに提出するまでの一連の周知を期待する。
- 研修によって、時間や問題数に大きく差がないことを期待しています。
(現状が把握できていませんので、すでに実施されていたらすみません)

(3) バッジキャビネットについて次年度以降も利用したいと思うか

- 本町では、町独自の研修実施が限られている。そのため、キャビネットで、多くの研修受講履歴を保管する必要性が少なく、次年度 OKUTEP (OZONE-EDU) を利用した場合は、キャビネットを利用しないプランを検討する。
- 今年度は、キャビネットを利用された方が少数でしたので
次年度以降は、活用させていただき、提出確認がスムーズになるといいと思います。

VI まとめ

大阪教育大学では、令和4年度より開発し、提供を開始したオンライン教育プラットフォーム「OKUTEP」を活用し、現役教員の自律的で継続的・個別最適な学びを保障するための教員研修モデルの開発を行った。開発された研修モデルは、1. 教師の目標と教育委員会のニーズの両立、2. 研修受講履歴の活用、3. 研修受講履歴の統一的な管理、4. 良質で多様な研修コンテンツの提供という4つの要素に重点を置いている。

開発した教員研修モデルの有効性を確認するため、大阪市、堺市、河南町の3市町村の教育委員会と連携して2023年7月3日から2024年2月29日までの約8ヶ月間にわたって実証実験を行った。この期間中、793名のユーザーが受講登録を行い、多様な研修コンテンツが提供された。実証実験では、受講者はビデオ教材を活用し、マイクロラーニングを通じて学習を進め、デジタルバッジを取得することを確認できた。さらに、バッジウォレットやバッジキャビネットなどのツールを通じて、研修受講履歴の管理と活用が促進されたことを確認できた。

アンケート結果からは、受講者がオンライン研修の利便性や、デジタルバッジによる学習モチベーションの向上を高く評価していることが明らかになった。また、研修内容に関する肯定的な意見が多く寄せられた一方で、操作性の改善やより実践的な研修内容の提供など、さらなる改善点も指摘された。今後は、アンケートで指摘された課題に対処し、研修モデルのさらなる改善と発展を目指す必要がある。

VII 付録

1. 教材作成マニュアル
2. 大阪教育大学と愛知教育大学が包括連携協定を締結(プレスリリース)
3. 提供した研修一覧
4. 研修とカテゴリ・教員育成指標との対応付け

1. 教材マニュアル

PPT の教材マニュアルを添付

2. 大阪教育大学と愛知教育大学が包括連携協定を締結（プレスリリース）



国立大学法人

大阪教育大学



国立大学法人

愛知教育大学
AICHI UNIVERSITY OF EDUCATION

Press Release

2023 年 12 月 5 日

報道機関 各位

大阪教育大学と愛知教育大学が包括連携協定を締結

【本件のポイント】

- 地域の枠を超えて大阪教育大学と愛知教育大学が包括連携協定を締結。
- 教員研修の高度化及び教員のなり手不足解消のために連携。

国立大学法人大阪教育大学と愛知教育大学は、それぞれ、大阪、愛知にて長い教員養成の歴史を有しており、大阪教育大学は令和4年に教員養成フラッグシップ大学に指定され、また愛知教育大学は国立の教員養成課程における教員就職者数全国一位を何度も達成しています。

この我が国の教育と教員養成をリードする二大学は、各種教育課題の解決と教員養成の発展に寄与することを目的とし、包括連携協定を締結することとなりました。

免許状更新講習の発展的解消や教員のなり手不足などの社会環境の中、両大学の強みを活かした高度な教員研修における連携や教職の魅力向上を中心として、教育研究、学生支援を含め幅広く包括連携体制を構築して参ります。

つきましては、協定締結式を以下のとおり執り行いますので、当日の取材方よろしくお願い致します。なお、取材にお越しいただける際には、12月13日正午までに下記の問い合わせ先までご一報ください。

大阪教育大学と愛知教育大学との包括連携協定 締結式

【日 時】 令和5年12月15日（金）11時00分～11時30分頃

※協定締結の後、質疑応答の時間を設けます。

【場 所】 KKR ホテル大阪 5階 葵の間
(大阪市中央区馬場町2-24)

【列席者】 大阪教育大学： 学長 岡本幾子

理事・副学長（教育・研究・危機管理担当）廣木 義久
副学長・事務局長 宮崎 孝

愛知教育大学： 学長 野田敦敬

理事（連携・附属学校担当）・副学長 杉浦 慶一郎
理事（財務・総務担当）・副学長・事務局長 新津 勝二

問い合わせ先

<大阪教育大学>

総務部総務課広報室広報係長 加藤博祥

Tel: 072-978-3344 Fax: 072-978-3225

E-mail: kouhou@bur.osaka-kyoiku.ac.jp

<愛知教育大学>

財務・学術部 地域連携課長 古田紀子

Tel: 0566-26-2212 Fax: 0566-95-0552

E-mail: chiiki@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

3. 提供した研修一覧

NO	コンテンツ名	研修概要
1	Society5.0 時代の学校情報化	Society5.0 時代とはどういったものかについて理解し、学校における情報環境の変化、これから求められる子どもの資質・能力や、授業について考えていただきます。
2	GIGA スクール時代の ICT 活用入門	GIGA スクール構想推進が本格化し、一人一台の情報端末を学校現場で活用可能なノウハウを、実例を交えながら獲得することを目指す。授業や校務における ICT の活用とといった、様々な場面における活用について考察を行う。
3	主体的・対話的で深い学び	理解の「深さ」の分類(タキシノミー)に関する知識を獲得し、「深さ」の層に対応する指導・学習のあり方を把握することで、「深い学び」の実現に向けて新しい実践を構想することができる。
4	体育授業と子供の健康	健康・スポーツに関する課題と成果は日々更新されており、最新の情報で教育を行うことが必要であるものの、現場教員にとっては困難がある。本講習では、体育科・保健体育科の指導に関連する「教科内容」を、健康の観点から解説を通して、教科専門指導能力の向上を図る。
5	安全の視点からの保健体育授業	本講習では、体育科・保健体育科の指導を、安全の観点から考え、実践に活用できるようになることを目的とする。そのために近年の子供の運動指導、各種体育授業における安全についての解説、教科専門指導能力の向上を図る。
6	発想が広がる図工・美術の題材Ⅰ	図工・美術は、子ども自ら主題を生み出し、試行錯誤しながらイメージを実現する教科である。創造性を刺激し、個々の発想が生きて広がるような題材づくりの基本的なあり方を、体験的かつ理論的に考えて頂く。
7	発想が広がる図工・美術の題材Ⅱ	図工・美術は、子ども自ら主題を生み出し、試行錯誤しながらイメージを実現する教科である。創造性を刺激し、個々の発想が生きて広がるような題材づくりの基本的なあり方を、体験的かつ理論的に考えて頂く。
8	授業実践に必要な英語スピーキング力向上講座 1	スピーキング指導に活かすという観点から、授業実践に必要な英語の基礎知識と技能を整理する。指導者に必要な英語力のうち、「話すこと」に関する事項を中心に理解を深め、指導者自身のスピーキング力向上を目指す。
9	授業実践に必要な英語スピーキング力向上講座 2	スピーキング指導に活かすという観点から、授業実践に必要な英語の基礎知識と技能を整理する。指導者に必要な英語力のうち、「話すこと」に関する事項を中心に理解を深め、指導者自身のスピーキング力向上を目指す。
10	物語教材の教材分析入門	小学校並びに中学校で学習指導される文学教材を取り上げ、「題名」、「冒頭と結末」、「人物・キーアイテム」、「プロット」、「語り」の5つの観点で分析するための方法を具体的にレクチャーする。
11	教科の指導法(社会)	学習指導要領を手がかりに社会科の目標・内容について理解する。また、理解・探究・価値判断・意思決定などねらいに応じた授業方法について学ぶ。最近の学習指導の実際の工夫、評価改善の仕方を学ぶ。
12	思考力・表現力を育てる算数教材「結び目」	思考力・表現力を育てる教材として「結び目」を用い、観察・変形の活動を通してものの位置関係を考え図表現したりする体験を行う。また、その体験をもとに結び目の数学の理論的な背景を理解できるようにする。(主に小学校教員対象)
13	中学校・高等学校数学教員のための数学	中学校・高等学校数学の背景となる数学の基礎を理解すると同時に、具体例を通して現代社会と数学との関りを理解する。(主に中学校又は高等学校の教員対象)
14	子ども理解の教育心理学	思考のバイアスと科学的思考法の関係を学ぶ。また、授業や学習で重視すべきことを、記憶のしくみ、学習動機づけの観点から理解する。これらの学びを、自身の教育指針・教育法のふりかえり・改善に活かせるようになることを目指す。
15	子どもの心に耳をすます-感情の社会化を促す関わり	近年の不登校・いじめ・非行事例において、家庭や学校で、身近な大人に気持ちを発信できない子どもや、身近な大人から気持ちを発信してもらえない子どもが増えている。本講義は、大人がどのように関われば子どもが気持ちを発信しやすくなり、また大人がどのように子どもの気持ちを発信すればよいのかについて、臨床事例および研究知見に基づき考察する。

16	教育相談-学校生活における具体的な支援-	学校教育相談に関わる理論と技法を学ぶ。また、不登校やいじめなどの学校生活で苦戦する子どもの問題への理解を深め、支援の方法を活用できるとともに、未然防止と問題解決に向けた組織的対応の視点と方法を身につける。
17	特別支援教育の現状	インクルーシブ教育システム構築をめぐる特別支援教育の現状を知り、また、どのような問題点があるかについて学ぶ。その上で、障害に対する合理的配慮や学習指導要領に準拠した支援教育について理解することを目指す。
18	配慮を要する子ども・特別な援助ニーズのある子どもへの指導、支援	本研修では、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒(可能性を含む)の実態と指導上の課題点について学ぶ。その上で、発達障害のある児童生徒への支援方法や環境整備について理解することを目的とする。
19	学校安全と危機管理	学校での事件や事故が起こらないように、児童生徒が安心・安全に過ごせるように、学校の安全と危機管理は、教員にとって重要な課題である。学校安全と危機管理の様々な側面について学ぶ。
20	人権の尊重	学校の課題を把握し、学校の人権教育推進のため、経験年数の少ない教職員に助言することができる(対象:経験年数5～10年程度の教職員)。
21	組織的対応の必要性和チーム学校づくり	学校において、近年ますます多様化・複雑化する課題に対応するために、組織的対応が求められています。本講習では、学校に求められる役割や機能が変化について説明するとともに、チーム学校をつくるため視点の提示と学校をモデルとした演習を行います。
22	地域や保護者との連携	どのような経緯を経て、「開かれた学校」づくりが推進されたのか、更に「社会とともにある学校」づくりの必要性が生じたのか、その経緯とともに、背景をしっかりと理解し、今後の教育に生かそうとする資質を高める。
23	子どもの変化と教職について省察する	本講習では、国の教育政策の変化や法の改正について説明するとともに、チーム学校を作るため考え方の提示と学校をモデルとした演習を行います。各種答申に示された教育改革の方向性、2017年改訂学習指導要領の実現を支える実践的知見、「日本型学校教育」の海外展開について知ること、教育現場の内部から教育活動を改善し教師が学び続けることの重要性を認識する。
24	若手教員の育成	採用5年目までの若手教員を対象とします。 ・めざす教師像 ・教師に求められる意識 ・生活指導のあり方 を中心に、学び続ける教員をめざして、自己研鑽のあり方、協働意識のあり方を理解し、実践できることをめざします。
25	SDGsの学習:基礎理論編	持続可能の概念、ESD(持続可能な開発のための教育)の歴史や概要、SDGs(持続可能な開発目標)の基礎について理解できる。
26	SDGsの学習:教材研究編	ESDで大切にしたい価値観や育てたい資質・能力を理解し、SDGsが教科等横断と関連することを確認した後、教科等横断の観点で食品ロスについて教材研究をおこなうことができる。
27	SDGsの学習:カリマネ編	ESDの指導計画や本時の展開を立案するとともに、グランドデザインの構想について理解する。
28	新しい食の安全を考える-遺伝子組換え	受講者は本講義を受けることにより、バイオ技術「遺伝子組換え」を用いた食品について、正確な基礎知識を身につける。その上で、新しい食の安全について、教育現場でどのように指導していくべきかを考察する。
29	新しい食の安全を考える-ゲノム編集	受講者は本講義を受けることにより、バイオ技術「ゲノム編集」を用いた食品について、正確な基礎知識を身につける。その上で、新しい食の安全について、教育現場でどのように指導していくべきかを考察する。

4. 研修とカテゴリ, 教員育成指標との対応付け

NO	コンテンツ名	バッジマップ カテゴリ	育成指標			
			大阪市	大阪府	堺市[主として教員版]	
1	Society5.0 時代の学校 情報化	授業づくり	C18	IV10,IV11	教育資源の活用, 様々な 教育課題への対応	
2	GIGA スクール時代の ICT 活用入門					
3	主体的・対話的で深い 学び		C21,C22,C23,C17		「主体的・対話的で深い学 び」の実現	
4	体育授業と子供の健 康	教科等指導力	C16,C17	IV10,IV11	授業(保育)構想	
5	安全の視点からの保 健体育授業					
6	発想が広がる図工・美 術の題材Ⅰ					
7	発想が広がる図工・美 術の題材Ⅱ					
8	授業実践に必要な英 語スピーキング力向上 講座 1					
9	授業実践に必要な英 語スピーキング力向上 講座 2					
10	物語教材の教材分析 入門					
11	教科の指導法(社会)					
12	思考力・表現力を育て る算数教材「結び目」					
13	中学校・高等学校数学 教員のための数学					
14	子ども理解の教育心 理学	子ども・人理解	B7, B8, B9, B10, B11, B12, B13, B14, C19	V13	子ども理解, 人間関係づく り, 配慮を要する子どもへ の支援・指導	
15	子どもの心に耳をすま す-感情の社会化を促 す関わり				人間関係づくり, 子ども理 解, 配慮を要する子どもへ の支援・指導	
16	教育相談-学校生活に おける具体的な支援-					
17	特別支援教育の現状		B10		配慮を要する子どもへの 支援・指導	
18	配慮を要する子ども・ 特別な援助ニーズのあ る子どもへの指導, 支 援					
19	学校安全と危機管理	教員としての 基本的な資質	A1, A2, B15, D28	I 2	危機・安全管理	
20	人権の尊重		A3, A4	I 1	人間性、人権感覚	
21	組織的対応の必要性 とチーム学校づくり	協働	D24, D25, D26, D27	Ⅲ7, Ⅲ8	社会性, 保護者・地域等と の連携・協働/問題解決・ 合意形成/同僚との協働	

22	地域や保護者との連携		D27		社会性、保護者・地域等との連携・協働/問題解決・合意形成
23	子どもの変化と教職について省察する	人材の育成	A5, A6	I 3	使命感・責任感/自己研鑽
24	若手教員の育成		A5,D24,D25,D26	III9	同僚との協働/使命感・責任感/人材育成(管理職版)
25	SDGs の学習:基礎理論編	現代的課題			様々な教育課題への対応
26	SDGs の学習:教材研究編				
27	SDGs の学習:カリマネ編				
28	新しい食の安全を考える-遺伝子組換え				
29	新しい食の安全を考える-ゲノム編集				

様式第 15（無断複製等禁止の標記）

無断複製等禁止の標記について

委託事業に係る成果報告書の無断複製等の禁止の標記については、次によるものとする。

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、大阪教育大学が実施した令和4年度教員研修の高度化に資するモデル開発事業の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。